

第416回:新聞よ、はしゃぐなかれ

どうして、かうなつたのでせう。日本を代表する全国紙は、一体全体いつから競馬場の予想屋になつたのだらう。けふ、もとい、きょうから北京で始まる中国共産党代表大会(19大)で誕生する「新チャイナセブン」の予想記事だ。

読売新聞は「有力視される常務委員の顔触れ」として、「留任」が習近平(64 党総書記)と李克強(62 首相)、「政治局委員からの昇格」が汪洋(62 副首相)、胡春華(54 広東省党委書記)、韓正(63 上海市党委書記)、栗戰書(67 党中央弁公庁主任)、そして「中央委員からの(飛び級)昇格」として陳敏爾(57 重慶市党委書記)を挙げており、これはまだまともな記事だと思う。

朝日新聞は、彼らを四段階にクラス分けし、「◎留任」が習近平と李克強、「○内定」が栗戰書、「○有力」が汪洋と韓正、「△可能性」が胡春華、王滬寧(62 党中央政策研究室主任)、趙楽際(60 党組織部長)、陳敏爾と詳しく分析している。

日経新聞は今朝の朝刊で、更に細かく五段階にカテゴライズ。「確定」が習近平と李克強、「ほぼ固まる」が栗戰書と汪洋、「有力」が韓正、「可能性」が陳敏爾、胡春華、趙楽際、王滬寧、そして「退任意向だが他の要職に起用も」が王岐山(69 党中央規検委書記)と、まるで中南海の舞台裏を覗いてきたような報道だ。

毎日新聞は「陳敏爾が中国副主席に内定」、「習氏後継固まる」と、人事を発令してしまった。

相場の予測はわれら証券マンの得意技だが、朝毎読日の一連の記事は、朝日の◎○△が端的に示すように、中山のオケラ街道脇に軒を連ねる予想屋の占いそのものである。

これまで中国の人事予想は香港の日刊紙・政治雑誌、あるいは欧米の華字紙の独壇場であったのだが、最近習政権が強める言論統制の結果、今年の秋は、物言えば唇寒し秋の風となったようで、彼らの多くは沈黙を守っており、代わりに日本の新聞が大はしゃぎしているというわけだ。

読者諸賢におかれては、この類の与太話は極力無視するようお勧めする。中国は日本にとって大事な国だが、チャイナセブンの顔触れなんて、どうでもよいことだ。

いま日本では総選挙の真っ只なか、安倍首相退陣の可能性は限りなくゼロに近づいたようだが、万が一安倍さんが退任することになったら、誰が政権の中樞を占めることになるのか。おそらく岸田、麻生、二階、石破、大島、細田、甘利といった自民党の領袖たちだろうが、彼らの力量や系譜等をスラスラ語れる日本人はまずいない。自国の権力構造がよくわからない人が他国の最高指導部を予想できるだろうか。こんなことができるのは、それが商売の新聞社を除けば、一部のチャイナウォッチャー(しかもヲタク系の)だけだ。

しかも、そんなウォッチャーも、中国の情報筋と円満なパイプを保持するために、やむなく郭声琨、丁薛祥、張又俠といった要人の氏名をグオシヨンクン、デインシュエシアン、ジャンヨウシアと般若心経を唱える要領で暗記しているに過ぎない。

因みに丁薛祥は習近平さんの大秘(秘書官)を勤めるナゾの人物。最高指導者の秘書官の名前くらいは覚えておかないと、バカにして相手にしてくれない情報源もいるもので・・・。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

大事なのは要人の顔や名前を覚えることではなく、中国を動かす数十人の要人の資料を眺めつつ、彼らの年齢、出身地、学歴、職歴、そして江沢民、胡錦濤、習近平といったリーダーとの過去の接点等を分析し、①中国覇権戦略の行方、②対日関係改善の可能性、③目指す方向が規制緩和か、規制強化か、④経済・金融リスクに対処できる人材の有無などを探るのが中国研究の最終目的だと思っている。

常務委員の当落を占うくらいのヒマとエネルギーが、日本の全国紙にあるのであれば、四大国有銀行の不良債権比率(2017年1-6決算)が平均1.65%と5年ぶりに低下したという朗報や、7%に迫りそうな勢いのGDP統計等、「中国経済のナゾ」に切り込んだ方が、遥かに人の役に立てると思うが、どうだろう。

そんなカバチを垂れながら、筆者も八卦占いに余念がないのだが、ボクの場合は偏狭老人のひまつぶしとご理解いただきたい。好きこそものの上手なれというように、この作業を進めるには、大量の中国語資料を読むことが必要であり、老眼の進行が気になる高齢者(でも前期初年度です)には辛いものがある。

北京の19大に参加している2287名の全国代表のなかに、情報源となりそうな人が何人いるか探す作業だけでも大変だ(残念ながら知人は何人かいたが、友人はいなかった)。

しかも中国人には王さん、李さん、張さんが、それぞれ1億人近くおり、同姓同名には注意が必要。今回の全国代表の中に「劉偉さん」が4人もいて、名簿では「北京」、「四川」、「中央国家機関」、「解放軍」で区別している。他にも「王寧」が3人、「王宏」、「王鋭」、「王炯」、「王金龍」、「王建軍」、「劉娟」、「李斌」、「李明」、「李萌」、「何平」、「辺巴扎西」が2人といった具合だ。因みに最後に登場した辺巴扎西(ペンパ・タシ)さんの内の一人は、チベット人で世界の8000メートル峰を全て踏破した有名な登山家ではないかと思う。

最後に毎日新聞が国家副主席に当確と、辞令を出してしまった、いま時の人となっている習主席側近の陳敏爾氏。国家副主席とは主席を補佐し、時に国事活動を行う「中国の顔」である。過去の副主席経験者を俯瞰すると榮毅仁、胡錦濤、曾慶紅、習近平、李源潮といった恰幅も面構えも流石は大国の大人と思わせるような方ばかり。こう云っちゃなんだが、風邪を引いた高崎山のような風貌に、副主席はチョット荷が重いのではと、某消息筋がこっそり教えてくれた。

19大の開催日に合わせ、北朝鮮がこれみよがしにミサイル実験をするのではという穿った見方もあったが、さすがにそれはなさそうだ、やれやれ。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成29年10月18日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3

